

「森銘三刈谷の会」だより 47(2025/11/15)

発行 2025/11/15 (月刊・メールでの投稿歓迎)
例会 第3土曜日 14:00-16:00 市中央図書館 参加自由

47:2025/10/18(土) 刈谷図書館創立 110周年記念「刈谷図書館と村上文庫展」の展示解説 (参加 14人)

村瀬典章

刈谷図書館は大正4年11月23日県より創立の認可を受けた。今年で創立 110周年を迎える。これを機会に

「刈谷図書館と村上文庫展」を開催した。図書館創立については、春の企画展で、村上文庫を整理した森銘三について展示を行ったので、今回は創立を提唱して実務を行い、初代館長となった高須鉄吉の業績を中心にして紹介を行った。

ここでは主な資料を紹介してみたい。高須鉄吉は亀城尋常小学校校長黒田定衛が死去すると、町民挙げての懇望により、その後任として帰郷し、後任の校長に任命された。そのあと、亀城尋常小学校の『同窓会雑誌』第9号※で図書館創設の意見書を書いている。これがきっかけに刈谷町は図書館創設に向かって突き進んだ。

高須が勇退の意志を告げると、同窓門下の有志が謀り、謝恩会を組織して一般篤志者の寄付を仰いだ。その事業の一つが記念碑の建設、もう一つが高須の書いた碑文や書をまとめた『碧海詩鈔』※である。「記録」※と「高須先生謝恩記録」※はその謝恩会の記録が書かれている。また、高須は碧海・履祥と号し、多くの書※を残している。

次に図書館開館時の新刊書を紹介した。『刈谷町立刈谷図書館図書分類目録』※の初版本は現在確認できるもので4冊しか残っていない。その後部に新刊本が掲載されているが、その数は391点。うち現在も収蔵されているものは45点である。村上文庫が6348点であることから94.2%が村上文庫を占めている。

村上文庫からは、村上忠順の注釈書として、『散木葉歌集標註』※『村上忠順標註古語拾遺』※『村上忠順古事記標註』※を紹介した。それぞれ印刷したものの下書きなどが残る。また併せて村上忠順が書いた記録集として、『天保集』※『弘化記』※などのほか、三河に関する記事を写し採った『三河雑鈔』※を紹介した。

このほか蔵書印についてまとめた。村上家は代々医者として引き継がれていたので、医学関係書が多く残されている。全体の約10.4%を占めていることから、他の文庫にはない特色の一つといえる。特に忠順の祖父にあたる忠直の蔵書印があるのは、医学書のうち11.1%を占めており、医学書については忠直の収集したものである割合が高い。「村上文庫」(登録番号2, 以

バックナンバー 刈谷市中央図書館>森銘三刈谷の会
共同代表 神谷磨利子・鈴木 哲 tetsu_s@katch.ne.jp

下当登録) とある蔵書印は、忠直の蔵書印と同一書物に押してあつたり、幕末のものにも押してあることから、村上家で代々押された蔵書印であると考えてよいだろう。同じく「参河碧海村上図書」(登録93) とある蔵書印も同様である。

文礼館についてはその創立経緯自体がはっきりとせず、慶応4年5月19日に再興されたことは間違いない。

「文礼館記」とある蔵書印は二つあるが、そのうちの一つ(登録44)は『三策』※という明治元年10月に出版されたものに押してあることから、再興なった文礼館で押されたものであるといえる。「刈谷図書」(登録25)とある蔵書印は代々刈谷藩で押されていたといえる。

蔵書印を1点1点分析することによって、村上文庫の本の伝播の様子を知る手掛かりになる。蔵書印研究が進むことを期待する。

※印があるものは展示資料

村瀬さんの「刈谷図書館と村上文庫展」と加藤修さんの「文礼館考」
鈴木 哲

村瀬さんの「刈谷図書館と村上文庫展」の説明を伺い、秦峨眉(子恭, 1716-91)が58歳年上の細井広沢(1658-1735)に「文禮館」揮毫を依頼し得たかという疑問と、文禮館刈谷設立は『愛知県教育史』(1973)などの天明3年(1783)でなく『尾張名家誌』の天明壬寅[2]年(1782)という説明に説得力があった。文禮館刈谷再興慶応4年(1868)5月19日は「分限帳」だけでなく「御触状留帳」にもあることを学んだ。加藤修さんの「文礼館考」『かりや』39(2018):47-68を再読した。

解説をお聞きして文禮館の扁額を訪ねる

飯田 芳子

今回の森銘三刈谷の会は、刈谷図書館創立110周年記念とのことで「刈谷図書館と村上文庫展」の展示物の解説を村瀬典章さんから受ける。

第1章、村上家に始まり第六章、蔵書印で終わるテクストは、慶応4年辰5月の文禮館開館の口達の覚(24頁)で終わる。(23頁)村上忠順の千巻の舎文庫へ寄せる溢れる思いがつづられ切なるものがある。その思いは、図書館開設に尽力された高須鉄吉校長を中心に纏められており、敬して郷土資料館西側庭園の記念碑と二階資料室の文禮館の扁額を訪ねた。展示物の細字で書き込まれた注を見れば思わず内容に触れてみたいとの思いに駆られるが、個人的には第5章25の天保集、26の三河雑鈔を機会を見て読みたいと思っている。

高須鉄吉に覚えた親近感

河橋 育実

10月の鉄三さんの会は村瀬さんのお話を聞きする会でした。

今回は高須鉄吉についてのお話がありました。鉄吉は高須勝弥の長男と分かり一気に親近感を覚えました。

三ツ松悟さんの『幕末家老処世記 幕下りるまで』の中で、三ツ松勘兵衛と親しく高須勝弥はいろいろ活躍していました。とても好印象でした。その長男であればやはり立派な方だろうと思ってしまいます。

そして今回も村上文庫の蔵書印のお話もありました。それだけ蔵書印の種類が多いのだと改めて思いました。

村瀬さん、貴重なお話をありがとうございました。

図書館開館の機運を盛り上げた高須鉄吉に思う

神谷磨利子

これまでの展示を通して、村瀬さんは図書館開館までの基本方針を作ったのは高須鉄吉であると解説してくださいました。図書館開館の機運を盛り上げた高須の生涯の歩みをまとめた今回の展示内容により、高須の人柄がよく分かった。森鉄三は高須鉄吉・宍戸俊治という先達の教えを受けて、『刈谷町立刈谷図書館図書分類目録』の作成という仕事をなし得たのだという思いを新たにした。

前回展示されていた「新刊図書仮目録」について、今回は書籍の記載実数や「新刊書目録」記載の書籍数との差も明らかにされており、その間の鉄三の仕事についての想像も膨らんだ。

また、刈谷図書館開館時の蔵書の94.2%が村上文庫の蔵書だということから、村上忠順がいかにこれらの書を集めめたかについて、忠順自身が書く「千巻舎歌集」の長歌や「著作目録」の漢文と和文の序を読む機会があればよいと思った。

予定 2025/11-2026/3

48 : 2025/11/15(土) 第1会議室 : 神谷磨利子 森鉄三
(1934年)「黄表紙作家としての唐来三和」~『再会親子錢独楽』(寛政5年、出版つたや)を読もう

2025/12 休会 (8,12月は休会)

49 : 2026/01/17(土) : 第1会議室 : 神谷磨利子
『再会親子錢独楽』を読もう』続き
<関連行事> 2026/01/18 (日曜) 刈谷市郷土文化研究会
第4回談話会 長嶽秀雄「服部長七と三河人」[視聴覚室]
50 : 2026/02/21(土) : お申し出下さい。
51 : 2026/03/21(土) : お申し出下さい。

表 「森鉄三刈谷の会」における村瀬典章さんの解説

(神谷磨利子覚書より)

回	実施日	人数	タイトル	趣 旨
4	2021. 12. 18	16人	森鉄三による村上文庫整理	刈谷市中央図書館の村瀬典章氏から「刈谷図書館の建物はいつできたか」「分類目録はだれが、何を参考にして作ったか」の基本的な話を図書館所蔵の書類から解説していただいた。「図書館ニ閣スル一件」により高須鉄吉が分類項目案を作ったこと、大正6年6月に宍戸俊治からの書籍の渡し覚書があることを知った。さらに「村上文庫」悉皆調査の仕事を通し、図書納入と整理の一覧や森鉄三の村上文庫整理方法等について、「日誌」等の具体的資料から分かりやすく話していただいた。
32	2024. 5. 18	12人	「刈谷図書館と村上文庫展」解説	村上文庫等刈谷市中央図書館所蔵古典籍データベースの公開に併せて開催の「刈谷図書館と村上文庫展」(2階展示コーナー、2024/3/23-5/26)について村瀬氏から展示内容の説明。村上文庫の国学、医学、文学、和歌の4つと旧所蔵先の文礼館(刈谷藩藩校)、枇杷島の青物問屋の野口道直、尾張藩士の神谷克楨(三園)の3つの計7つに分け、展示されていた。続いて刈谷図書館開館までの経緯について予算、村上文庫台帳等の資料を元に村瀬氏から話していただいた。
37	2024. 10. 19	18人	「刈谷図書館と村上文庫展その2」解説	明治末期に売却の話があった村上文庫を宍戸俊治・藤井清七両氏が買い取り、図書館創立の話が持ち上がっていた刈谷町へ寄贈したことによって刈谷図書館が創立したことは周知のことである。今回の展示では、藤井家の蔵書目録(大正2年7月に移り、1年かけて蔵書目録作成)、藤井家から寄贈された分の書籍の楕円形の蔵書印「大正記念藤井図書」など、藤井家の資料に焦点が当たっていた。さらに、高須鉄吉が基本方針を決め、大正5年6月17日から始まった森鉄三による村上文庫の整理について「日誌」(鉄三20日より記録)より作業時間を算出するなど具体的なパネル展示があった。文礼館を中心に刈谷藩に関する蔵書印のある資料に参加者は興味を引かれていた。
43	2025. 5. 17	13人	「森鉄三 生誕130年 没後40年展」解説	森鉄三が人物研究・書誌学者として名声を挙げたきっかけとなったのは刈谷図書館の創立時に村上文庫を整理したことによる。村瀬氏は今回の展示の目的を「郷土の偉人として顕彰するとともに、村上文庫及び刈谷図書館の紹介のため」と言われた。村上文庫整理の過程が分かる日記や新規購入本リスト、子どもたちのために開館日数を増やしてほしいとする「要求三件」の書類など、興味深い資料の解説をしていただいた。鉄三への母からの手紙、弟・三郎からの手紙も資料として公開された。
47	2025. 10. 18	14人	刈谷図書館創立110周年記念「刈谷図書館と村上文庫展」解説	1915(大正4)年11月23日、県より刈谷図書館設置の認可が下りて以来110年を記念しての企画展の解説を村瀬さんにお願いした。今回は刈谷図書館開館までの経緯を高須鉄吉の業績を主として展示されている。また忠順の注釈書、記録集などの書籍の紹介も多く、村上文庫の内容への興味が増した。蔵書印についての村瀬さんの考察は今後もさらに統いて、村上文庫の書物の由来がよりはつきりすることと想像される。